

8 ハラスメント

ハラスメントとは、嫌がらせを意味します。「ハラスメントを受けている」と思ったとき、被害者となります。本学では、ハラスメントの防止・排除に努めています。

1 ハラスメントとは

- 大学で起こりうるハラスメントとしては、セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）やアカデミック・ハラスメント（アカハラ）などが主にあげられます。

- セクハラ
相手の人格を無視して、性的な性質の言動により屈辱感や不快感を与えること
- アカハラ
教員等の権威的地位を有する者が、その立場を利用して勉学・教育・研究への妨害や人権侵害を行うこと

2 本学の基本姿勢

- 本学におけるすべての教職員、学生および関係者が個人として尊重され、ハラスメントのない健全で快適な教育研究環境のもとで修学・就労することができるようハラスメントの防止・排除に努めます。
- 問題が発生した場合は、迅速かつ適切に対応します。
本学は、いかなるハラスメントに対しても厳しい姿勢で臨み、決して容認しないことを宣言します。

3 被害にあっていると感じたら

- ハラスメントは被害者の責任では起こりません。自分がハラスメントを受けていると感じたら該当すると思ってください。自分を責めたり、我慢しないで速やかに対処することが大切です。もし相手に不愉快であることを伝えることができる状況ならば、はっきりと「NO」の意思表示をすることによって解決する場合があります。
- ハラスメントは大変微妙で主観にかかわる問題を含んでいますので、少しでも疑問に感じたら学生センター学生相談室に相談をしてください。



- ハラスメントに関する相談は、学生センター学生相談室（SAS）で行っています。

4 加害者にならないために

- ハラスメントは個人によって感じ方が異なるために判断に迷う場合がありますが、自分の行動や行いが自分の大切な人に向けられた場合に不愉快に感じられるならばハラスメントになる可能性が高くなります。
- ハラスメント防止の第一歩は、「相手の気持ちになって考えること」です。



Column

「相手の気持ちになって考える」ために

- 親しさを表すつもりでの言動であったとしても、本人の意図とは関係なく相手を不快にさせてしまう場合がある
- 不快に感じるか否かには個人差がある
- この程度のことは相手も許容するだろうという勝手な憶測をしない
- 相手との良好な人間関係ができていると勝手な思い込みをしない
- 相手から意思表示がなくても同意と勘違いをしない